ＪＥＡＳ２０２６－０９４
2026 年 10 月 14 日

会員　各位

一般社団法人 日本環境アセスメント協会
教育研修委員会委員長　小島　淳
セミナー委員会委員長　湯浅　晃一

2026 年度 JEAS 第 22 回技術交流会(Web 開催)における
技術紹介申し込み受付のご案内

時下ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

会員相互の技術交流および業務の活性化ならびに会員の有する環境アセスメント関連技術の内外への発信等を目的として、第 22 回技術交流会を下記の要領で開催いたします。遠隔地からでも多くの方が参加できるよう、今年度も Web により開催いたします。

技術交流会の開催案内については当協会 HP に掲載するほか、関係官庁、自治体、学会等にも行い、発表内容については当協会 HP や JEAS ニュースに掲載します。特に、JEAS ニュースは、会員のほか、約 1,200 箇所の関係官庁、自治体、大学、学会等へ配布していますので、発表者や所属企業の PR にも大いに役立ちます。

技術交流会での発表演題は、添付の資料１のとおり多岐にわたります。この技術交流会は、技術だけでなく、会員内外の交流の場、会員会社の PR の場、ビジネスチャンスの場、若手育成の場としても活用いただくことを期待しております。

つきましては、ご多用中のことと拝察いたしますが、なにとぞ奮って技術紹介の申し込みをいただきますようご案内申し上げます。

－　記　－

１．名　　称　2026 年度 JEAS 第 22 回技術交流会(Web 開催)

２．開催趣旨

環境アセスメント業務では、事業別・環境要素別に、調査計画から現地調査・解析、予測・評価、環境保全対策、報告書作成、住民説明等、幅広い技術とノウハウが必要です。

当協会の会員は、環境アセスメントに関するそれぞれ得意とする分野や技術を有しており、これら蓄積された技術やノウハウについて、会員相互に紹介・PR することにより、会員各社の業績向上や発展に資するものと考えられます。また、会員の有する技術を内外に発信することにより、環境アセスメントの技術普及や人的ネットワーク形成などを図ることができるものと考えられます。

３．開催日時　2026 年 12 月 4 日（金）13:00～17:00（予定）

４．開催方法　口頭発表：Zoom によるライブ配信

※ 技術交流会の参加申し込みをいただいた方に専用 URL をお送りし、視聴いただく方式です。

５．技術紹介の内容

①環境アセスメント関連技術、②その他自社の環境配慮型技術一般、そのほか昨年度までの技術交流会アンケートにおいて「今後、発表してほしい技術テーマ、内容」として挙げられたテーマを参考に幅広く対象とします。

例：
- 環境 DNA や NGS の分析導入事例や活用事例
- AI や IoT と環境調査、分析、環境技術との関連
- 海外ミティゲーション事例
- 生物多様性、SDGs、地域創生
- 調査の新技術、最新のセンサー、機器等
- 調査精度を上げるための ICT 技術の活用等
- ドローン、GIS
- 鳥類 3D カメラ、バイオロギング
- 猛禽類はじめ動植物調査の工夫事例
- 自然環境の保全技術
- グリーンインフラ
- DX 活用の工夫事例
- 再エネ（太陽光、水力、地熱、風力等）の開発初期における環境に係る取り組み
- 都市環境の評価手法（風環境、ヒートアイランド、都市景観、交通等）
- リモートセンシング技術を環境影響評価に活用した事例
- ネイチャーポジティブの実現につながる（つなげる）評価法や技術
- 現地調査の効率化、また調査員の熟度に依存しない技術、技術・技能の継承　　等

６．技術紹介の形式

(1) **口頭発表（プレゼンテーション）**　：発表時間 20 分（発表 15 分、質疑 5 分）

- JEAS 技術交流会専用アドレス (Zoom を使用予定) でのライブ配信を予定しています。
- 口頭発表は、下記 JEAS 会議室または発表者の事務所等からオンラインで行っていただきます。JEAS 会議室にて発表の場合は、発表 30 分前に会議室にご集合ください。
- ライブ配信はスタッフが行います。
- 発表後には質疑応答の時間を設けます。

【配信会場】〒102-0092　東京都千代田区隼町２番１３号 ＵＳ半蔵門ビル７階
一般社団法人　日本環境アセスメント協会　会議室
https://jeas.org/access/

７．スケジュール

(1) 技術紹介申し込みの期限	10 月 30 日(金)
(2) プログラムの決定・技術交流会聴講参加申し込み開始	11 月中旬予定
(3) 技術交流会	12 月 4 日(金)

８．申込方法

別紙申込書に必要事項を記入して、2026 年 10 月 30 日(金)までに協会宛に e-mail (asekyo@jeas.org) によりお申し込みください。

９．その他

(1) 発表形式・時間は申し込み件数により調整させていただくことがあります。
(2) 会員からの発表希望の状況により、非会員からの応募を受け付けることがあります。
(3) 技術交流会への参加募集は非会員も対象とします。
(4) 発表内容については、後日、当協会 HP (https://jeas.org/activity11/)、JEAS ニュースに、発表演題、発表者名、所属、発表概要を掲載します。

JEAS 技術交流会は JEAS－CPD 制度の認定プログラムです。

資料１

技術交流会における口頭発表演題（直近６年間）

回	演　題	発表者
第21回 (2025年) Web開催	1. ABINC「生物多様性ネットゲイン認証β版」のリリースと トライアルサイトの募集について	(株)ポリテック・エイディディ　中村 裕史
	2. コウモリ類の自動録音装置における死活監視装置の導入	アジア航測(株)　仲條 竜太
	3. パッシブサンプリング法による環境DNA調査の可能性	日本工営(株)　前原 裕
	4. AI画像解析技術を搭載した新たな河川浮遊プラスチック ごみ輸送量計測システム（PRIMOS）による推計手法	八千代エンジニヤリング(株)　後藤 早苗
	5.「海の地図ＰＲＯＪＥＣＴ」で視えた能登半島の変化	アジア航測(株)　杉浦 博
第20回 (2024年) Web開催	1.環境アセスメント士会について	環境アセスメント士会　浜田 拓
	2.風力発電アセスにおけるバードストライク防除策の検討 （鳥類音声忌避装置について）	いであ(株)　西川 正敏
	3.簡易的なIoTを活用した鳥類モニタリング	(株)ウエスコ　杉本 萌美
	4.土壌藻類を活用した自然に優しい侵食防止／植生形成技術<BSC工法>	日本工営(株)　村山 元
	5.麻機遊水池におけるナガエツルノゲイトウの対策事例	(株)環境アセスメントセンター　伊東 日向
	6.航空写真を用いた福井県沿岸全域の藻場判読と 利活用可能な主題図の作成	アジア航測(株)　沖野 友祐
	7. DNAメタバーコーディングを用いた食性解析手法の紹介	(株)日本海洋生物研究所　平岡 礼鳥
	8.画像認識AIを用いた都市河川スカム発生状況の可視化・定量化	八千代エンジニヤリング(株)　後藤 早苗
	9. AIを用いた静止画像解析による河川流量観測手法	国際航業(株)　寺本 雅子
第19回 (2023年) Web開催	1.コンクリートポンプ車の移動式防音囲いの紹介	大成建設(株)　長田 篤佳
	2.機械学習による河道植生予測モデルの活用	(株)日本工営　村上 千晶
	3.現地調査の効率化に向けた拡張現実とIT技術の活用	アジア航測(株)　宮原　智
	4.猛禽類の鳴き声による位置推定システム(音声レーダー)の開発	(株)オリエンタルコンサルタンツ　岩見　聡
	5.淀川河口部における浚渫土を活用した干潟再生試験の取り組み	八千代エンジニヤリング(株)　山田 啓介
	6.草地のビオトープによる緑化に関する研究	(株)大林組　相澤 章仁
第18回 (2022年) Web開催	1.川ごみモニタリングシステム「RIAD」の紹介と実践例	八千代エンジニヤリング(株)　山本 菜月
	2.水上スライダー Hy-CaT（ハイキャット）の紹介	(株)東京久栄　小林　努
	3.全国沿岸10海域における環境水中音の把握	アジア航測(株)　藪内 哲郎
	4.多様な虫の鳴き声が人の心理に及ぼす影響の検討	日本工営(株)　徳江 義宏
	5.GPS４G送信機によるハシボソガラスの行動域・利用環境の把握	(株)環境アセスメントセンター　植松 永至
	6.都市近郊を対象としたカワセミのＨＳＩモデルの 構築と環境アセスメント等実務での適用検討について	大日本コンサルタント(株)　海老原 学
第17回 (2021年) Web開催	1.環境DNA調査の誤差要因の整理と調査記録票の考案	大日本コンサルタント(株)　小田 正明
	2.土砂還元による礫河原回復に伴う陸生生物の生息環境の改善	八千代エンジニヤリング(株)　松浦 崇裕
	3.船舶レーダを用いたコウモリの移動経路・飛翔高度の解明	いであ(株)　小村 健人
	4.釣りだけじゃない！超精密な海底地形図の可能性とは？	アジア航測(株)　高柳 茂暢
	5.環境アセスメントにおける視覚化技術の最新動向BIM/CIMデータの活用	(株)風景デザイン研究所　上田 有利
	6.再エネ事業終了後等の土地利用変化に係る環境影響評価技術適用の 具体化に係る検討	(株)千代田コンサルタント　尾原 正敬
	7.エコツーリズムによる自然資源の保全と潜在性	(株)地域環境計画　千々岩 哲
	8.ベトナムでの分析事業と環境関連の話題について	(株)環境管理センター　熊田 貴充
第16回 (2020年) Web開催	1.小田和湾の環境改善ーアサリ生息調査を例にー	アジア航測(株)　壱岐 信二
	2.道路環境アセスメントの交通調査手法としてのTRAVIC活用	八千代エンジニヤリング(株)　小篠 耕平
	3.着床式洋上風力発電における発電コストの検討ー計算結果をGISで見える化ー	アジア航測(株)　浅井 樹
	4.機械学習を活用した騒音データ自動処理システムの開発	ムラタ計測器サービス(株)　石塚 敏久
	5.緑地における生物多様性保全への配慮から、 まちづくり全体へのSDGsの貢献へ(ABINCADVANCEの紹介)	大日本コンサルタント(株)　浦瀬 勇真

技術交流会における展示発表演題（直近６年間）

回	演　題	展示者
第21回 (2025年) Web開催	ポスター発表は実施していない	
第20回 (2024年) Web開催	ポスター発表は実施していない	
第19回 (2023年) Web開催	1.3Dモデルの作成による希少動植物ライブラリの作成と 環境教育及び広報・啓発への活用	(株)建設環境研究所　近藤 紘生
	2.静岡県二級河川太田川水系における農地防災ダムの排土工事による影響評価事例	(株)環境アセスメントセンター　加藤 健一
	3.簡易な魚類計測方法（アナログ版）の考案	(株)環境アセスメントセンター　北原 佳郎
	4.赤外線カメラ搭載のUAVを活用した取り組み	(株)環境アセスメントセンター　鈴木 雅人
	5.環境影響評価手続きにおける配慮書の想定区域と 方法書の実施区域の相違事例の整理	大日本ダイヤコンサルタント(株)　小田 正明
	6.猛禽類の鳴き声による位置推定システム（音声レーダー）の開発	(株)オリエンタルコンサルタンツ　岩見 聡
第18回 (2022年) Web開催	1.自社開発の電子野帳を用いた環境調査DX化	(株)建設環境研究所　大磯 勇己
	2.浅畑川における特定外来生物（植物）の防除対策について	(株)環境アセスメントセンター　品川 修二
	3.南アルプスにおけるUAVを活用した高山植物調査の取り組み	(株)環境アセスメントセンター　鈴木 雅人
	4.富士山における外来植物防除マット・ブラシの設置事例	(株)環境アセスメントセンター　酒井 孝明
	5.都市近郊を対象としたカワセミのＨＳＩモデルの構築と 環境アセスメント等実務での適用検討について	大日本コンサルタント(株)　海老原 学
第17回 (2021年) Web開催	1.IoTカメラによるオオタカ営巣状況のリアルタイム監視 及びAIを用いた工事影響検知システムの開発	(株)エイト日本技術開発　林 佑亮
	2.河川生態系に配慮したアンカー式空石積工法の生態系保全効果と課題点	(株)環境アセスメントセンター　北原 佳郎
	3.超音波式小型風向風速計を利用した簡易型気象ロガーと、 クラウドサービスを利用したリアルタイムデータ通信	ムラタ計測器サービス(株)　小山 慎一
第16回 (2020年) Web開催	1.ハチクマの人工代替巣設置による繁殖成功事例の紹介	国際航業(株)　河野 郁央
	2.IoT 自動撮影カメラを活用した 猛禽類のモニタリング調査の効率化に関する 取り組み	(株)環境アセスメントセンター北信越支社 植松 永至
	3.遠州灘沿岸域の堤防整備に伴う猛禽類への配慮について	(株)環境アセスメントセンター　近藤多美子
	4. RTK 法による UAV を用いた写真測量による河川の河床形態把握の取り組み	(株)環境アセスメントセンター　鈴木 雅人
	5.生物多様性の向上を目指したグリーンインフラの整備(事業所緑地の活用)	(株)環境アセスメントセンター　栗原 淳
	6.道路整備における保全対策事例～海浜植生の復元技術	(株)環境アセスメントセンター　栗原 淳

注）2021年度より、Web開催で実施する場合は従来の「展示発表」を「ポスター発表」としています。2026年度はポスター発表を予定しておりませんが、申し込み件数によっては、調整する場合がございます。